長野県北部におけるフクロウの食性―巣内に残された骨などの分析―

滝沢和彦（日本野鳥の会長野支部）

フクロウの食性について、雛が巣立った後の巣内に残された骨、羽毛などを分析することで餌動物の種類と個体数を推定した。

分析試料は、長野県北部の４調査地で採取した。中野市の山林において 1998 年 10 月に架設された巣箱について 2003 年、2004 年、2005 年の各繁殖終了後、長野市戸隠高原のカラマツの樹洞について 2005 年の繁殖終了後、北安曇郡白馬村落倉の湿地林に架設された巣箱について 2005 年の繁殖終了後、巣内に残された残留物を回収した。４調査地のうち、上水内郡信濃町富士里に架設された巣箱については 2003 年の繁殖終了後調査したが骨など残留物はなかった。骨からの同定と個体数の推定には哺乳類は上顎骨、下顎骨を用いた。モグラ類は前記のほか上腕骨、骨盤の骨を用い、鳥類は嘴、脚を用いた。

2003 年採取の中野市の４巣箱（架設から５繁殖シーズンを経て、それぞれ２～３繁殖シーズン利用された）に残された骨の分析からモグラ類 3 種（ジネズミ、ヒミズ、アズマモグラ）、ネズミ類 5 種（ハタネズミ、ヒメネズミ、アカネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミ）、鳥類 1 種（イカル）が同定された。羽毛の分析からはヒヨドリ、カワラヒワ、スズメが同定された。巣に運ばれたが食べられなかったものではアズマモグラ、ヒヨドリがそれぞれ 1 個体残されていた。４巣ともネズミ類が主で約 63～98％を占め、モグラ類約 1～33％、鳥類約 1～5％であった。

2004 年、2005 年の分析結果とあわせ、巣周辺の環境と餌動物の関係、地域差などについて考察したい。

発表にあたり、巣箱の調査を承諾してくださった山上孝男氏、渡辺浩平氏、梅本禎子氏に御礼申し上げます。